

日本公民館学会
日常生活を支える公民館事業論

松本市の公民館活動と地域づくり

島内地区の実践

コメント

島内地区地域づくりセンター
センター長 勝家 隆

公民館活動によって生み出されたもの

- 「平瀬古城会」を核とした、島内地区への展開
- その過程での近隣町会との連携体制の構築
→課題解決の施策に取り組む土壌を生んでいる。

- 多様な実践を通して住民同士の関係性を築く
- 物事を話し合いによって解決していく習慣を地域に根付かせる
- 活動の知恵やノウハウ、人材等を蓄積する

→地域づくりを進めていくための“土壌”を常に耕している



4

島内地区の抱える課題 その1

- ▶ 例えば…防災(水害・地震)、高齢者等の交通手段の確保、空き家、新築できる土地が無い(市街化調整区域)、農業の担い手、休耕田、新興住宅地の高齢化、新旧住民の関係性、貸家と町会のつながり、小規模町会の町会合併、ゴミの処理場と住民間の意識、通学路の安全、外国人との関係、役員の担い手 等々…

→あれもこれも…課題ばかり

町会から出たい…マンモス町会で、隣同士の関係も希薄化。家庭の事情で、役員は3年間受けられないと断ったのに、回ってきそう。これまでも町会に加入している意味を感じたことはなく、出るにはどうしたらよいか。

通学路のゴミが…通学路沿いの業者が、においの出るゴミを敷地内へ大量に放置しており、市環境業務課から指示が出ても改善されない。

体協から脱会…地区の体育事業へ参加する町会住民は皆無なので、年会費を支払ったり事業へ協力したりできない。町会として脱会したい。

5

島内地区の抱える課題 その2

▶ポイントは…

- ① 各町会の地勢や現状等が異なるため、抱える課題そのものが異なる。
- ② 同じ課題であっても背景や質が異なるため、取組み等についての意見交換が難しい。

▶町会単位で解決に取り組まざるを得ない

6

島内地区の抱える課題 その2のつづき

▶例えば「役員の担い手不足」という課題でも…

A町会:17世帯でそもそも人がいない。一人3役は当たり前。

B町会:989世帯で、町会・常会・組と、できるだけ顔が見えるレベルで検討するが、関係性が希薄化しているため、なり手がいない。

C町会:95世帯の市営住宅の町会で、棟ごと顔は見えるが「経常的に病院へ通っている」「移動手段が徒歩しかない」等の方が多く、役員の引き受け手がいない。

D町会:266世帯の農業エリア。三世代同居や農家分家が多く、顔が見える関係は築かれているが、子ども世代は会社勤めで夜は遅く休日は農業の手伝い。町会の役員は祖父母世代でしか受けられない。

島内公民館の紹介

(活動・基本方針)



- ➡ ① **講座の充実**
各種団体と連携し、高齢者の生きがいがづくり
- ➡ ② **芸術文化活動の活性化**
島内の文化を発信し、地域文化の醸成
- ➡ ③ **子どもに魅力ある活動**
地域での交流を通じ、健やかな成長&地域愛UP
- ➡ ④ **スポーツの底辺拡大**
体協等と連携し、健康増進や顔が見える地域
- ➡ ⑤ **人権教育の推進**
コンサートや学習で、お互いを大切にできる地域社会

島内公民館の紹介(①講座の充実)

農業文庫「視察研修会」



昭和に行われた圃場整備事業による環境の変化や影響を考え、平成10年に図書室「島内農業文庫」を公民館へ設置(現在のギャラリー)。

文庫の普及と運営のために、土地改良区委員が中心となって運営委員会を組織し、図書館の協力を得ながら活動。

平成13年島内図書館開館に合わせた移転後は、地区の生涯学習講座を公民館と連携して企画・実施。

島内公民館の紹介(③子どもに魅力ある活動)

農業文庫「正月の伝統行事」



島内公民館の紹介(③-2子どもに魅力ある活動)

愛ランド島内「おらんちdeランチ」



平成30年から毎月1回、遊び・勉強・工作・食事をセットにした子どもたちの居場所を住民有志でスタート。三代交流(運営=高齢者、参加=親子)が目的で、100名程度の親子連れが訪れる。

島内公民館の紹介(④スポーツ底辺の拡大)

島内地区大運動会



各種スポーツ大会



公民館としてはこんなことを大事にしている…

■楽しみながら活動(無理はしない&背伸びしない)

- ・ 作業は短時間集中で…楽しみは終了後の慰労会 残留する人も!!

■「やりたいこと」を実現

- ・ 「言い出しっぺが責任持ってやるってこっせ」はダメ
- ・ 実現するための方法を、みんなで考える。
- ・ 「それいいじゃん」で小グループをつくり、会や地域へ広げる。
- ・ やれることはやる&一気にやる&個性を活かす=活動も人も広がる。

■ブラッシュアップして継続・発展・蓄積

- ・ 下田・山田の取組み→一口城主会→平瀬古城会 拡大発展
→「地域文化財の保全・整備・活用」の大きな方針は変えず、「今現在」に合う形を模索しながら活動を前へ進める。
- ・ 農業文庫 本は図書館へ、「農業を考える」ための学習会は今も継続

公民館の基盤づくり 人づくりの例

■ 公民館活動へ参加していた人が町会の役員へ

- ① 若いころに、文化・スポーツ活動への参加を通じて、地域への理解醸成と社会活動の大切さを認識
- ② 60代以降に、町会長や町内公民館長等の役職へ就任
- ③ 次の世代へのバトンタッチ

■ 公民館委員活動から町会長等の役職へ

- ① 文化・館報・図書視聴覚・体育・運営委員を設置
- ② 公民館(地区)活動への住民参画を保障
- ③ 委員同士の話し合いや住民からの情報により活動を展開

■ 町内公民館長から町会長へ

- ① 住民の最も身近な社会活動拠点としての町内公民館
- ② 楽しみ・話し合い・交流しながら、地域のつながりを構築
- ③ 副町内公民館長→町内公民館長へ就任=地域への理解醸成

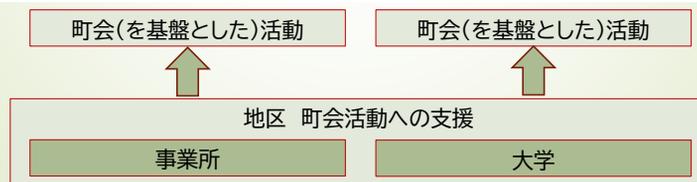
地域づくりセンター機能強化モデル事業 島内地区としては…重点課題「防災」

■ モデル事業の重点課題テーマ

- 地区・町会単位の防災体制の構築 → 「モデル町会」を選定して活動構築

■ モデル事業を通じた地区としての目標

- 防災を切り口として町会活動を再構築し、地区が支援する体制をつくる。
その際、日常からの「福祉活動」をつなげる。
- 他町会が活用できるモデルを構築する。
- 活動構築にあたり、地区・町会だけでなく、地区内の事業所や学校のほか、大学やNPO等の力を活用する。
- PDCAが自律的に根付き、無理なく持続可能な運営にする。



重点事業「防災モデル事業」の取り組みの切り口

- モデル事業での切り口(当初案)を示してモデル町会を募集
 - **水害への対応と避難計画・タイムラインの作成(特に浸水想定が深い区域となっている町会)**
 - **小・中学生の力を活かす**防災・福祉活動を構築する(特に小・中学校周辺の町会)
 - 要援護者の「**個別計画づくり**」から、安否確認や避難支援を考える。(特に避難行動要支援者名簿の活用を考えたい町会)
 - 大規模地震の際、**共助による救出支援体制**を考える。(一人でも多くの人を救出支援したいと考える町会)
- 事業を進める中で検討が必要になった切り口
 - 介護保険事業所など、福祉にかかわる専門職との連携や生活支援などとの連携を考える

15

島内地区防災モデル事業

16

平瀬川東・下田・犬飼新田町会の取り組み

町会	川東三町会
取り上げた「切り口」	水害対応と避難計画・タイムライン作成
隣組へのアプローチ	近隣での支援体制づくり
要支援者へのアプローチ	個別(避難・避難所支援)計画の作成 全戸へのアンケート、要支援者情報の収集・聞き取り
専門職との連携	個別(避難支援)計画の内容・件数のUP 専門職との情報交換 個別ケア会議による内容の充実
成果	近隣による支援体制の構築 アンケート、要援護者登録申請書、安否確認・避難指示マニュアル、個人情報取扱要綱、水害時タイムライン等のフォーマット
課題	要支援者情報の更新 担い手がいない、避難所に行けるかわからない 避難所運営

17

公民館活動によって生み出されたもの

物事を話し合いによって
解決していく習慣を地
域に根付かせていた

幅広い分野の活動を
構築し、住民同士の関
係性を築いていた

様々な活動により
人材の掘り起こしや活
動の知恵の蓄積が進ん
でいた。

公民館で培われた地域力＝「基盤」
を日々の活動で構築